

バイオマスガス発電の副産物を国産肥料の原料に有効利用

食品廃棄物を原料にしたバイオマスガス発電事業の副産物（発酵残渣）を有効利用した肥料製造に向けて官民学間連携でコンソーシアムを設立

○ 施策分類

普及・技術対策（GAPを含む）

（国内肥料資源活用総合支援事業（ソフト、ハード））

○ きっかけ・背景、課題の把握

バイオマス発電事業者（秋田市）との意見交換で発酵残渣（コンポスト）の処理とその強い臭気が課題となっていることを把握。

○ 取組の内容

- ・ 課題の解消に向けて、有識者（秋田県立大）をバイオマスガス発電事業者に紹介。
- ・ 発酵残渣等を秋田県立大が分析し、窒素及びリンの成分は肥料原料として有効で、そこへカリ成分を添加すると成分バランスの良い肥料となることが判明。カリ成分は籾殻燻炭が有効。籾殻バイオマス地域熱供給施設（大潟村）から供給が見込める。

○ 効果・成果、今後の方向性

- ・ 秋田県立大を中心に地域で発生する未利用資源（発酵残渣）等を活用した新たな有機肥料の開発と製造拠点の整備に向けた検討を目的に「大潟村新有機肥料製造コンソーシアム」を令和6年8月設立。
- ・ 構成員は、有識者、肥料製造事業者、原料供給者、大潟村。
- ・ アドバイザーとして、県と県拠点が伴走。
- ・ 新たな有機肥料の検討・研究・開発、製造拠点の整備へ向けた検討、その他の目的達成に必要な事項などに取り組んでいく。



コンソーシアム設立に向け、関係者が集まり協議



バイオマスガス発電施設
（秋田市）

体制図

